

## II 寡婦世帯

## 1. 寡婦世帯数

### (1) 寡婦世帯数の推移

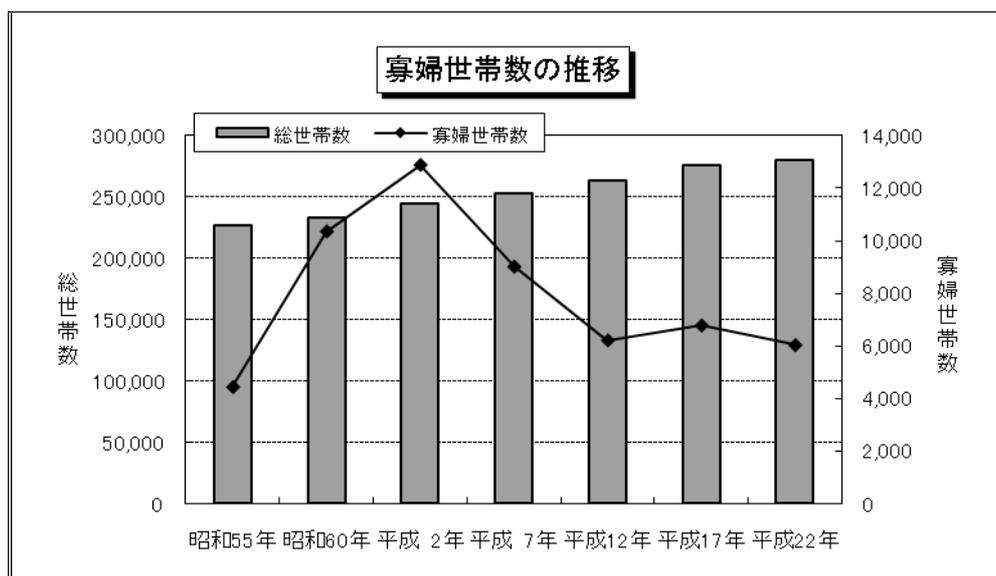
県下の寡婦世帯数は、前回調査（平成 17 年）より 746 世帯、11.0%減少し、6,033 世帯となっている。また、総世帯数に占める寡婦世帯数の割合（出現率）は、2.15% となっており、前回調査を 0.31 ポイント下回った。

寡婦世帯数の推移

調査年次	総世帯数 (世帯)	寡婦世帯数 (世帯)	寡婦世帯数の推移	
			増加率	出現率
昭和 55 年	226,445	4,443	-15.4%	1.96%
昭和 60 年	233,141	10,351	133.0%	4.44%
平成 2 年	244,072	12,878	24.4%	5.28%
平成 7 年	253,047	9,013	-30.0%	3.56%
平成 12 年	263,810	6,216	-31.0%	2.36%
平成17年	275,894	6,779	9.1%	2.46%
平成22年	280,280	6,033	-11.0%	2.15%

総世帯数出所：住民基本台帳

(昭和 55 年以前の数値は、第 2 IV 世帯種類ごとの比較中に掲載)



### (2) 市町村別寡婦世帯数

平成 12 年、平成 17 年と比較した市町村別の寡婦世帯数は、表のとおりである。

## 市町村別寡婦世帯数

市町村名	平成12年		平成17年		平成22年		平成12年 出現率	平成17年 出現率	平成22年 出現率
	総世帯	寡婦世帯	総世帯	寡婦世帯	総世帯	寡婦世帯			
松江市	72,430	488	76,154	566	78,579	697	0.67	0.74	0.89
旧松江市	58,310	132					0.23		
旧鹿島町	2,490	69					2.77		
旧島根町	1,356	33					2.43		
旧美保関町	2,114	40					1.89		
旧八雲村	2,038	22					1.08		
旧玉湯町	2,013	68					3.38		
旧宍道町	2,601	105					4.04		
旧八束町	1,508	19					1.26		
浜田市	25,396	1,305	26,205	1,409	26,656	575	5.14	5.38	2.16
旧浜田市	18,658	1,089					5.84		
旧金城町	1,853	72					3.89		
旧旭町	1,217	36					2.96		
旧弥栄村	756	19					2.51		
旧三隅町	2,912	89					3.06		
出雲市	45,210	706	48,491	1,850	50,763	1,359	1.56	3.82	2.68
旧出雲市	28,003	105					0.37		
旧平田市	7,965	381					4.78		
旧佐田町	1,300	40					3.08		
旧多伎町	1,308	47					3.59		
旧湖陵町	1,740	63					3.62		
旧大社町	4,894	70					1.43		
益田市	20,574	938	21,210	819	21,470	1,217	4.56	3.86	5.67
旧益田市	18,670	873					4.68		
旧美都町	1,083	36					3.32		
旧匹見町	821	29					3.53		
大田市	15,972	863	16,187	644	16,087	342	5.40	3.98	2.13
旧大田市	12,284	754					6.14		
旧温泉津町	1,773	55					3.10		
旧仁摩町	1,915	54					2.82		
安来市	13,408	79	13,793	162	13,979	276	0.59	1.17	1.97
旧安来市	9,200	20					0.22		
旧広瀬町	2,707	41					1.51		
旧伯太町	1,501	18					1.20		
江津市	12,031	358	12,071	205	11,779	158	2.98	1.70	1.34
旧江津市	10,636	297					2.79		
旧桜江町	1,395	61					4.37		
雲南市	13,292	437	13,516	107	13,681	477	3.29	0.79	3.49
旧大東町	3,956	193					4.88		
旧加茂町	1,844	59					3.20		
旧木次町	3,026	81					2.68		
旧三刀屋町	2,421	66					2.73		
旧吉田村	701	2					0.29		
旧掛合町	1,344	36					2.68		
東出雲町	3,818	139	4,585	149	4,968	92	3.64	3.25	1.85
奥出雲町	5,045	143	5,103	188	4,955	174	2.83	3.68	3.51
旧仁多町	2,692	92					3.42		
旧横田町	2,353	51					2.17		
飯南町	2,232	32	2,203	27	2,145	37	1.43	1.23	1.72
旧頓原町	1,037	8					0.77		
旧赤来町	1,195	24					2.01		
斐川町	7,110	38	7,663	41	8,596	53	0.53	0.54	0.62
川本町	2,044	87	1,931	55	1,822	36	4.26	2.85	1.98
美郷町	2,748	103	2,580	45	2,466	18	3.75	1.74	0.73
旧邑智町	1,924	83					4.31		
旧大和村	824	20					2.43		
邑南町	4,937	170	5,214	136	5,114	101	3.44	2.61	1.97
旧羽須美村	890	28					3.15		
旧瑞穂町	1,985	66					3.32		
旧石見町	2,062	76					3.69		
津和野町	3,989	95	3,873	67	3,690	50	2.38	1.73	1.36
旧津和野町	2,402	80					3.33		
旧日原町	1,587	15					0.95		
吉賀町	3,131	63	3,116	141	3,106	121	2.01	4.53	3.90
旧柿木村	668	11					1.65		
旧六日市町	2,463	52					2.11		
海士町	1,111	17	2,541	4	1,109	27	1.53	0.16	2.43
西ノ島町	1,730	42	1,705	36	1,642	55	2.43	2.11	3.35
知夫村	378	6	379	8	344	5	1.59	2.11	1.45
隠岐の島町	7,224	107	7,374	120	7,329	163	1.48	1.63	2.22
旧西郷町	5,334	61					1.14		
旧布施村	234	7					2.99		
旧五箇村	858	22					2.56		
旧都万村	798	17					2.13		
県合計	263,810	6,216	275,894	6,779	280,280	6,033	2.36	2.46	2.15

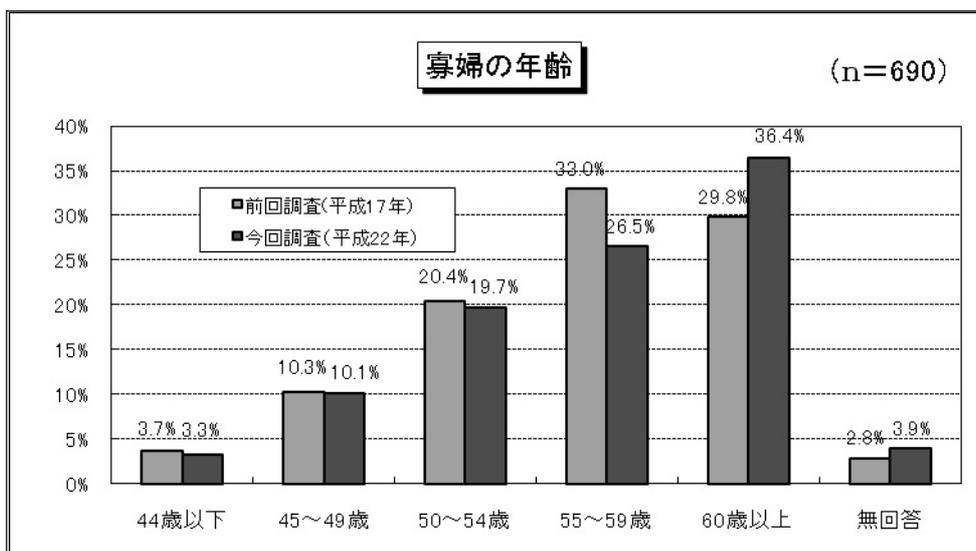
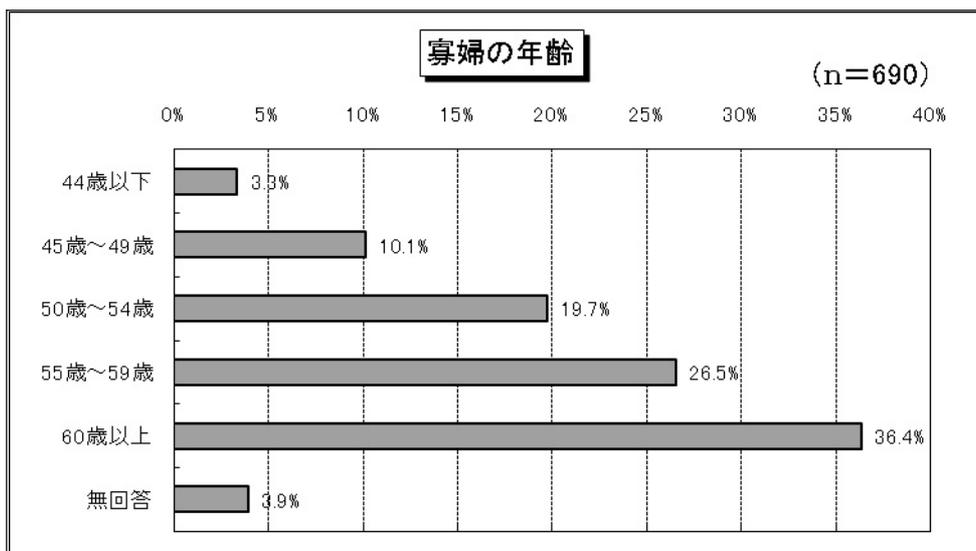
## 2. 寡婦世帯の状況

### (1) 寡婦世帯の寡婦の年齢

調査基準日現在の寡婦世帯の寡婦の年齢は、「60歳以上」が36.4%と最も多く、次いで「55歳～59歳」(26.5%)、「50歳～54歳」(19.7%)、「45歳～49歳」(10.3%)の順となっている。

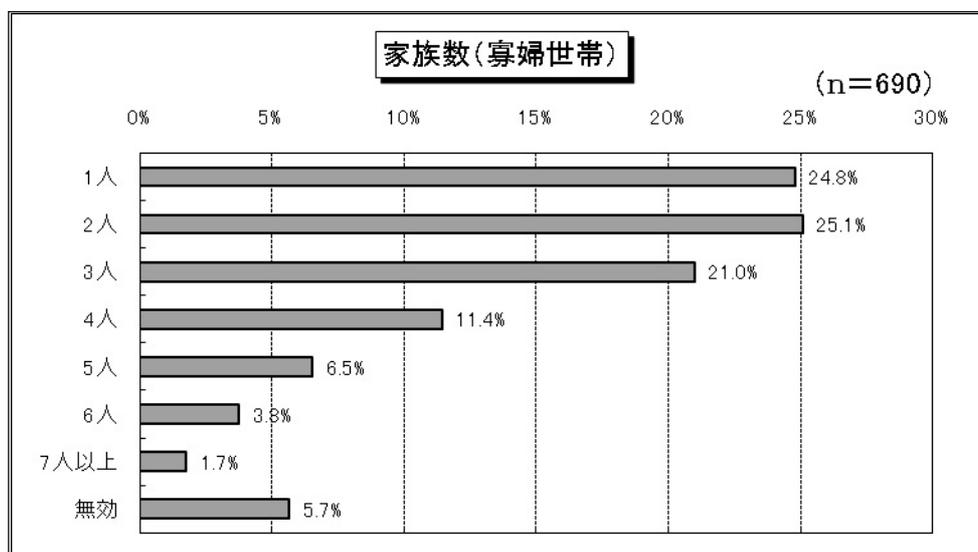
前回の調査(平成17年)において、29.8%だった60歳以上の占める割合が増加し、他の年齢域の割合は減少している。

寡婦の平均年齢は56.4歳で、前回調査より0.3歳高くなっている。



## (2) 寡婦世帯の家族数

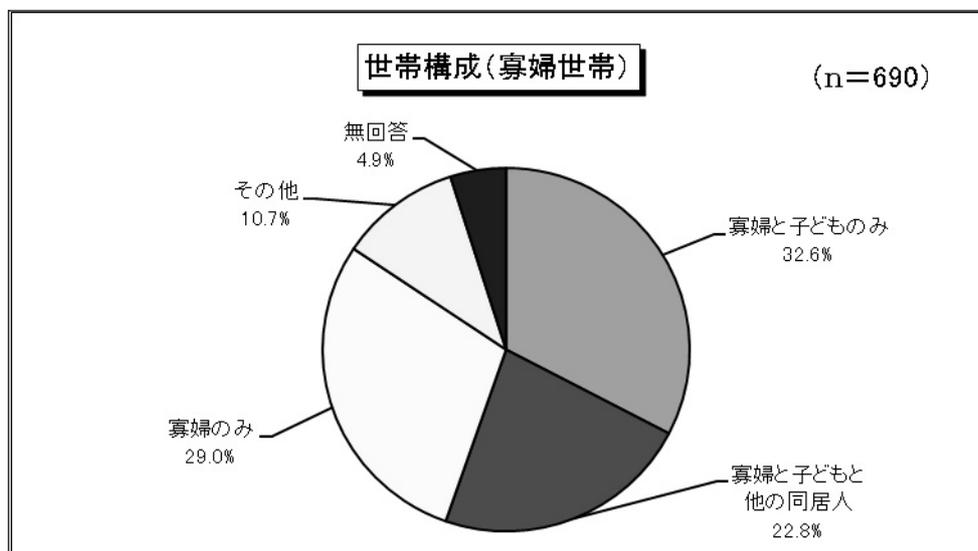
寡婦世帯の家族数は、「2人」が最も多く25.1%を占め、次いで「1人(寡婦のみ)」(24.8%)、「3人」(21.0%)、「4人」(11.4%)の順となっている。1世帯あたりの家族の平均人数は2.7人であり、前回調査の2.4人と比べてやや増加した。



## (3) 寡婦世帯の世帯構成

寡婦世帯の世帯構成は、「寡婦と子どものみ」が32.6%と最も多く、次いで「寡婦のみ」(29.0%)、「寡婦と子どもと他の同居人」(22.8%)の順となっている。

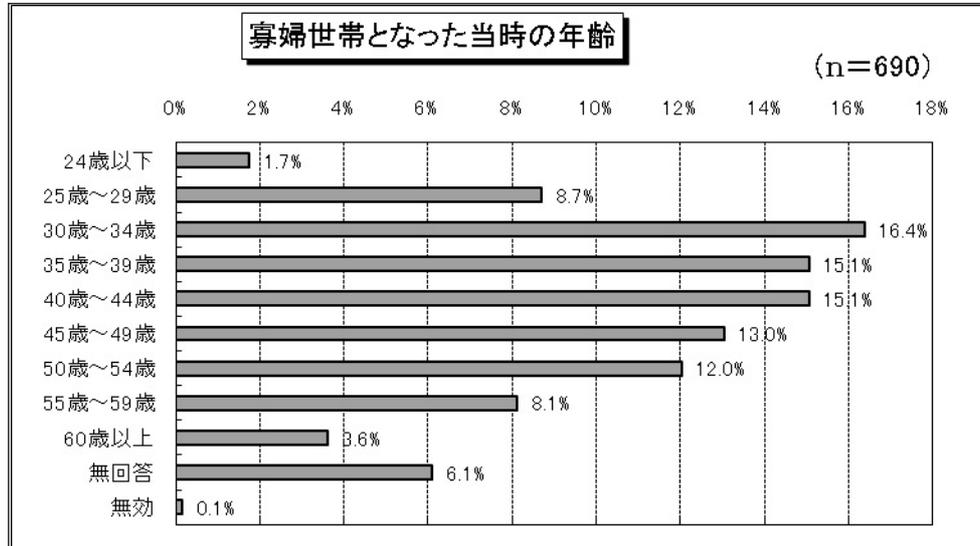
前回調査で「寡婦のみ」の世帯は36.3%であったことから、ひとり暮らしの寡婦の割合が減少している。



(4) 寡婦世帯（かつて母子世帯であった者は母子世帯）となった当時の年齢

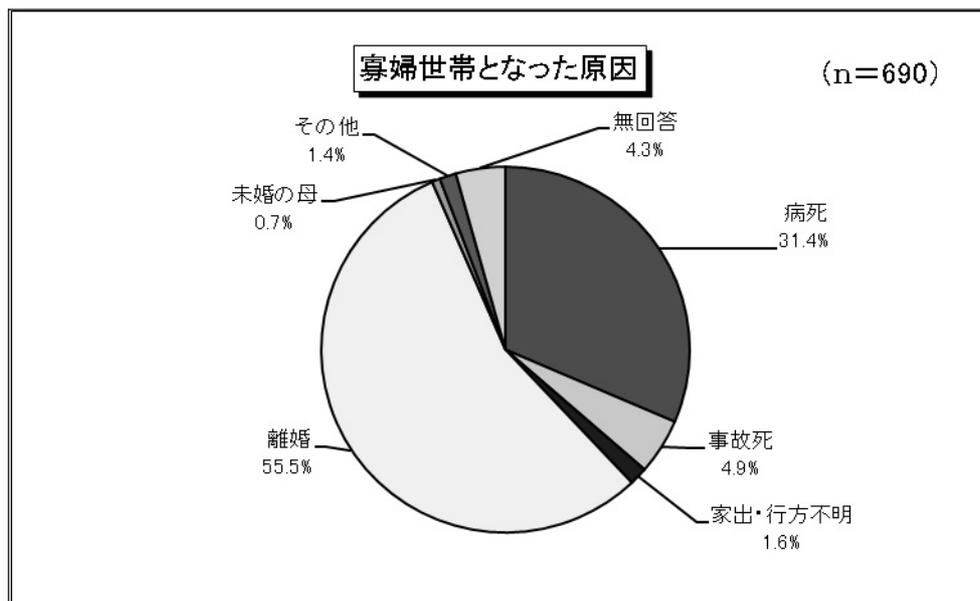
寡婦世帯となった当時の寡婦の年齢は、「30歳～34歳」が16.4%と最も多く、次いで「35歳～39歳」及び「40歳～44歳」（15.1%）、「45歳～49歳」（13.0%）、の順となっている。

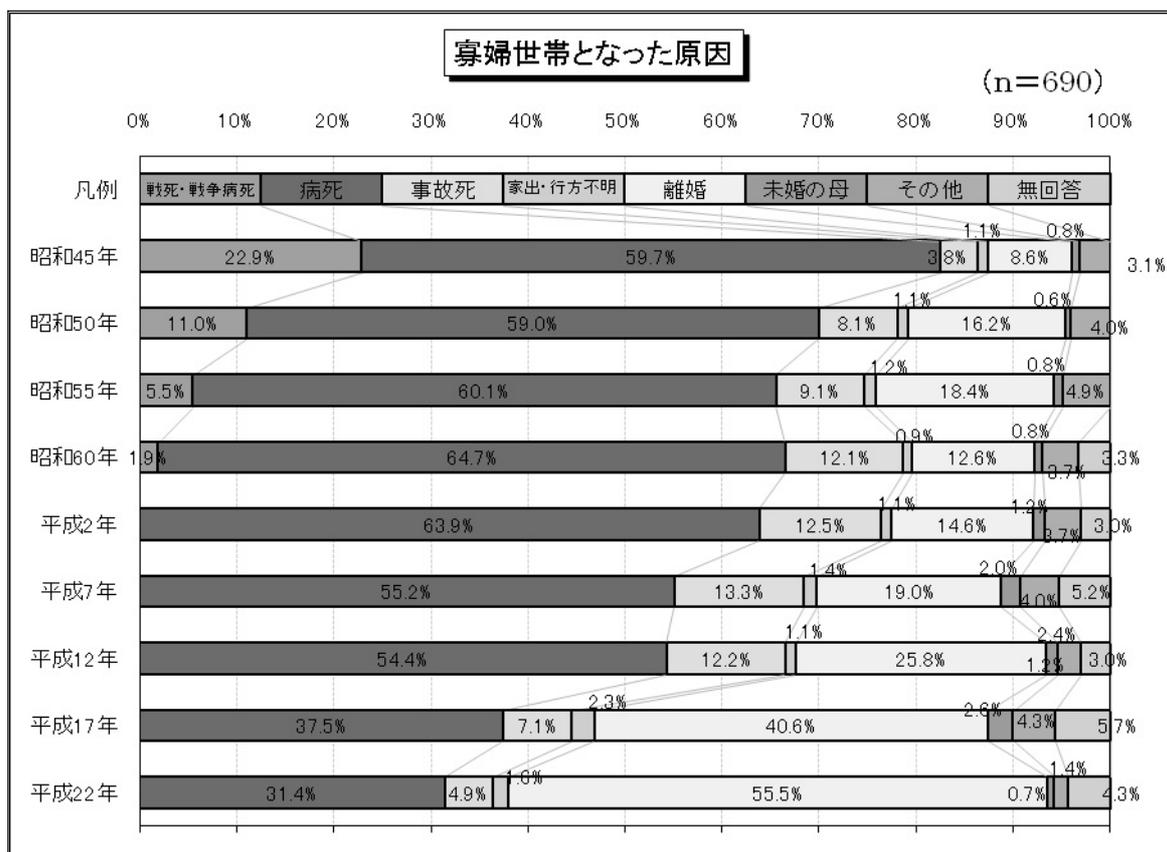
寡婦世帯となった当時の寡婦の平均年齢は、41.7歳で、前回調査より0.2歳高くなっている。



(5) 寡婦世帯（かつて母子世帯であった者は母子世帯）となった原因

寡婦世帯となった原因は、前回調査と比べると、「離婚」が14.9ポイント増加し55.5%と最も多く、次いで「病死」（31.4%）、「事故死」（4.9%）の順となっている。また、「離婚」や「未婚の母」といった生別が57.8%、「病死」、「事故死」といった死別が36.3%という構成になっている。



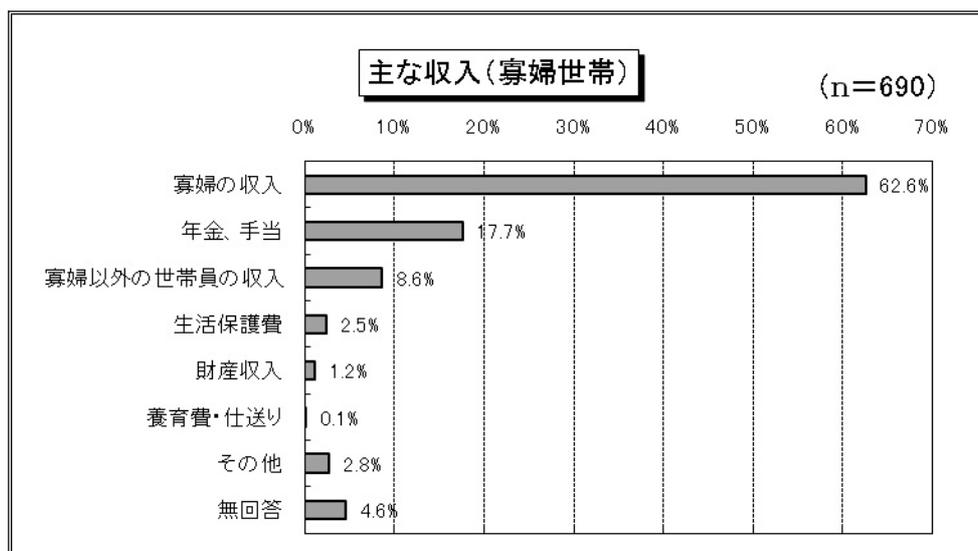


### 3. 家計の状況

#### (1) 寡婦世帯の主な収入源

寡婦世帯の主な収入源は、「寡婦の収入」が 62.6%と大半を占め、次いで「年金、手当」(17.7%)、「寡婦以外の世帯員の収入」(8.6%)の順となっている。

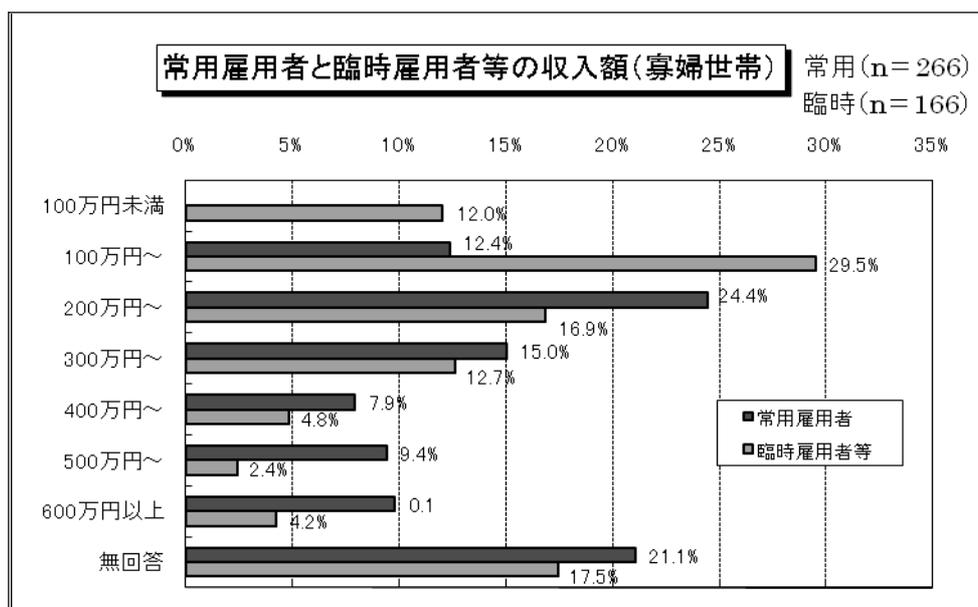
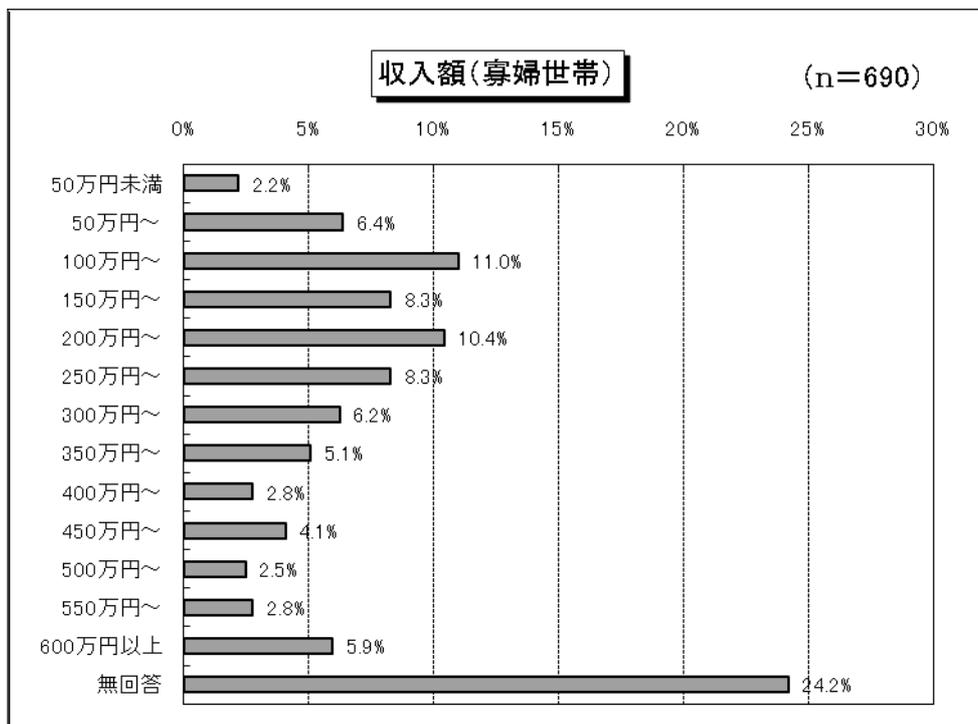
前回調査と比べると、「寡婦の収入」「寡婦以外の世帯員の収入」の割合が増加し、「年金、手当」の割合が減少している。



## (2) 寡婦世帯の収入額

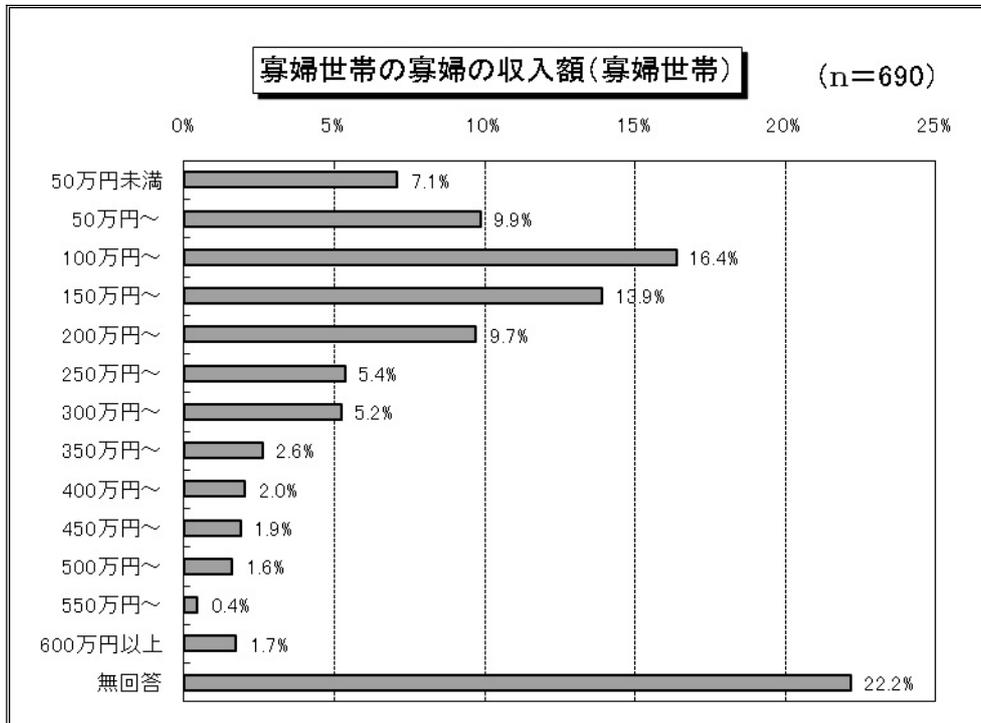
寡婦世帯の年間総収入額は、「100万円以上～150万円未満」が11.0%と最も多く、次いで「200万円以上～250万円未満」（10.4%）「150万円以上～200万円未満」及び「200万円以上～300万円未満」（8.3%）の順となっている。

これを就労形態別に見ると、「常用雇用者」の収入額は「200万円以上～300万円未満」の割合が高く、「臨時雇用者等」では「100万円未満」と「100万円以上～200万円未満」を合わせて4割を占めている。



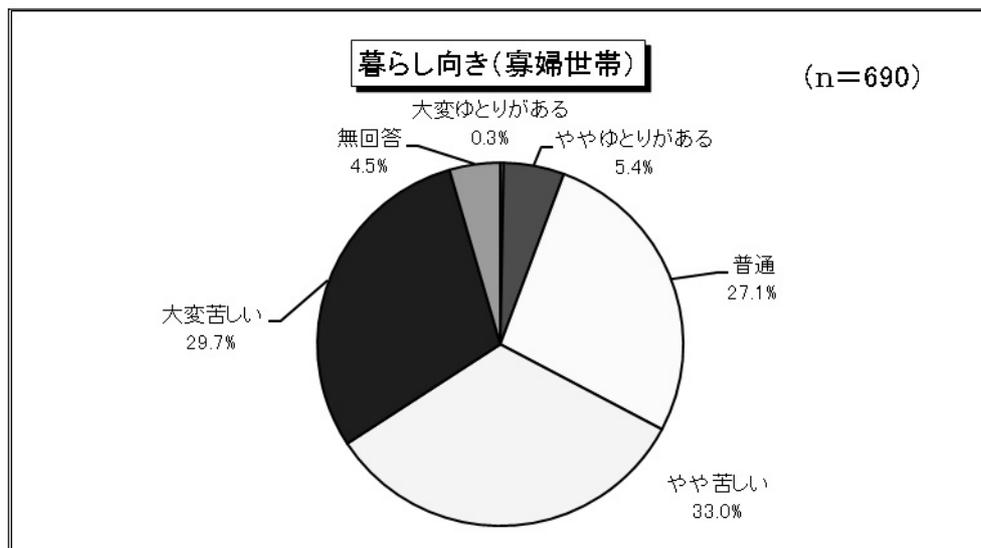
### (3) 寡婦の収入額

寡婦世帯の寡婦の年間総収入額は、「100万円以上～150万円未満」が16.4%と最も多く、次いで「150万円以上～200万円未満」(13.9%)、「50万円以上～100万円未満」(9.9%)「200万円～250万円未満」(9.7%)の順となっている。



### (4) 暮らし向き

寡婦世帯の暮らし向きは、「やや苦しい」が33.0%、「大変苦しい」(29.7%)と合わせると62.7%となっている。また「普通」は27.1%、「ややゆとりがある」(5.4%)、「大変ゆとりがある」(0.3%)という状況で、生活にゆとりがあると答えた世帯はごくわずかだということが分かる。



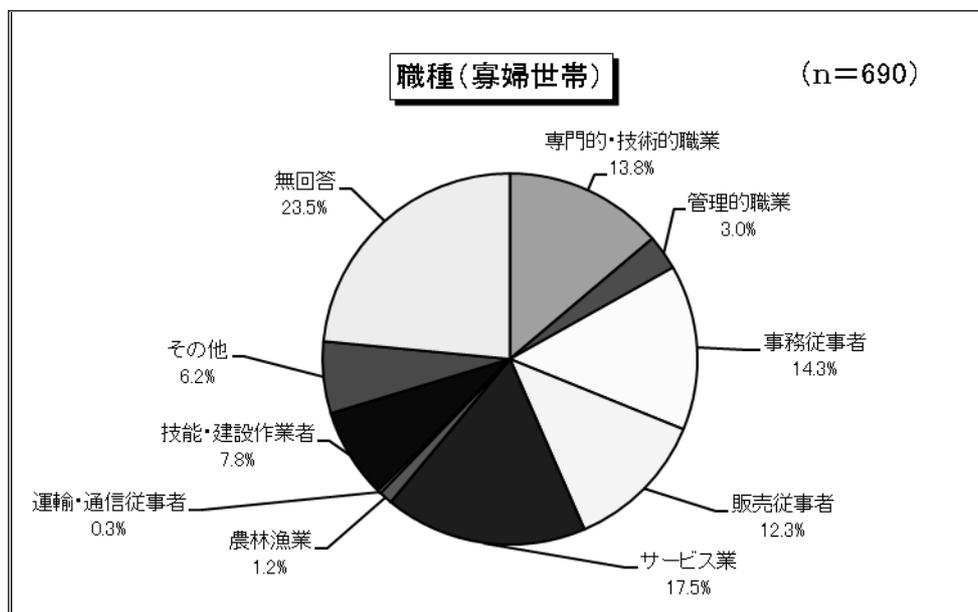
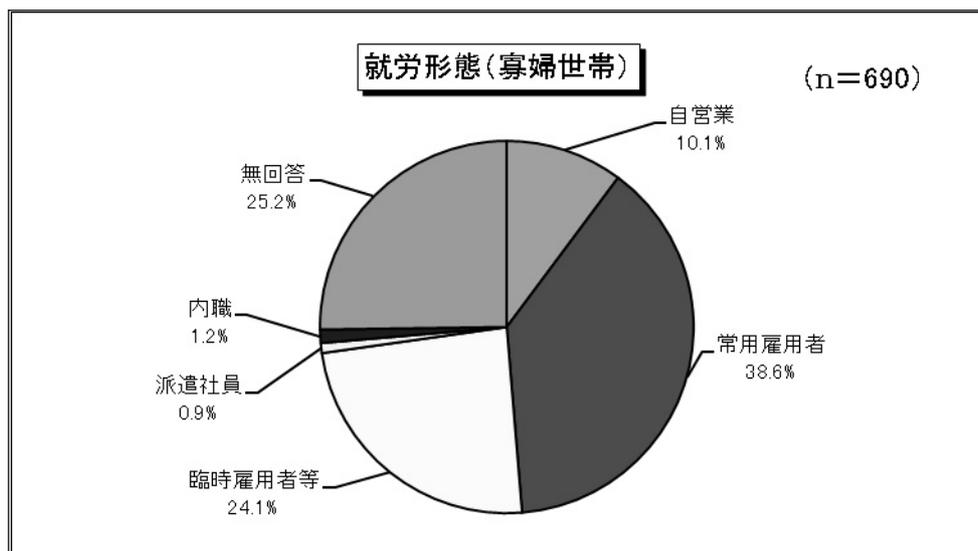
#### 4. 仕事の状況

##### (1) 就労形態・職種

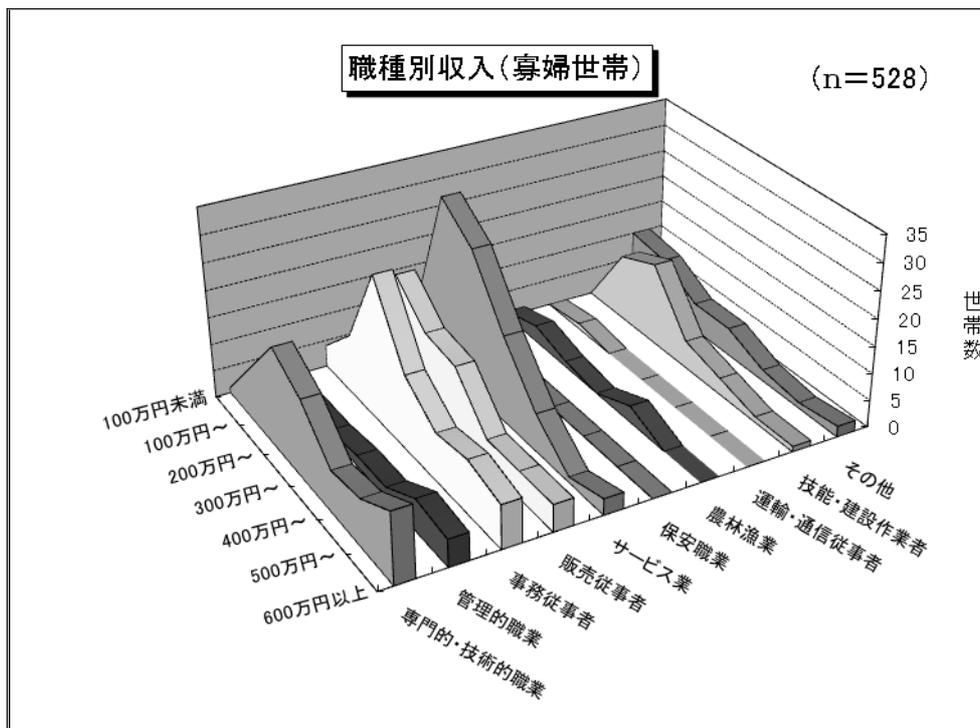
寡婦世帯の就業状況について、調査世帯の74.8%の者から回答があった。無回答の大半は働いていない者と考えられる。(4.(4)参照)

就労形態については、「常用雇用者」が38.6%と最も多く、次いで「臨時雇用者等」(24.1%)、「自営業」(10.1%)の順となっている。

また、職種区分では「サービス業」が最も多く17.5%、次いで「事務従事者」(14.3%)、「専門的・技術的職業」(13.8%)の順となっている。

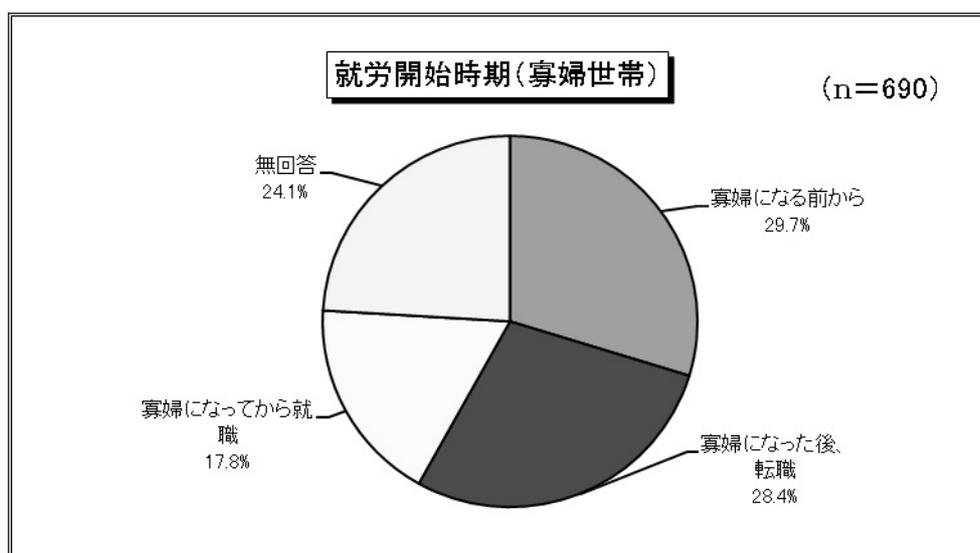


職種と総収入の関係を見ると、全体に占める割合の高い「サービス業」は「100万円以上 200万円未満」の区分が、「事務従事者」は「200万円以上 300万円未満」の区分が最も多くなっている。



## (2) 就労開始時期

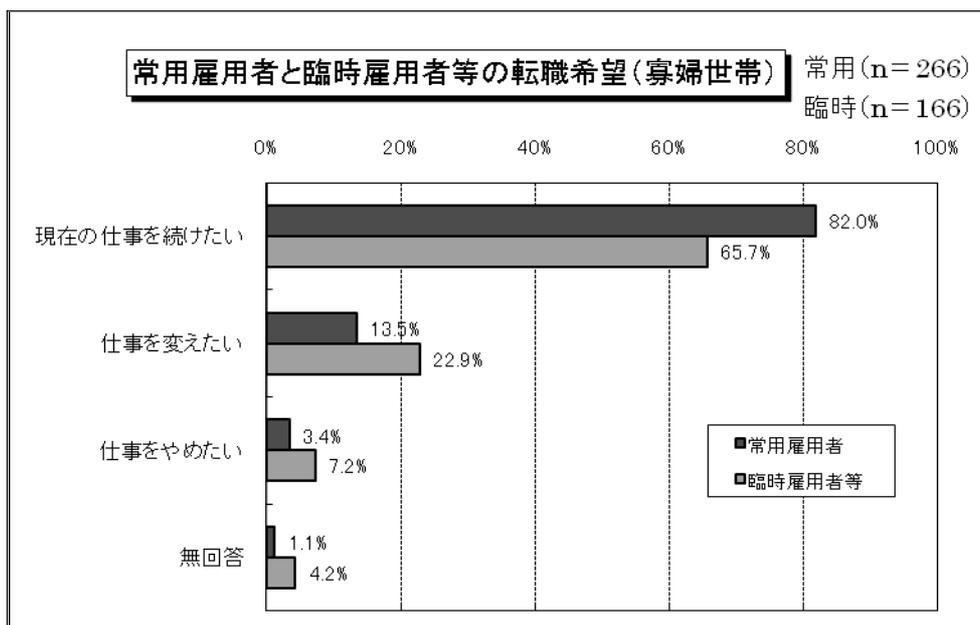
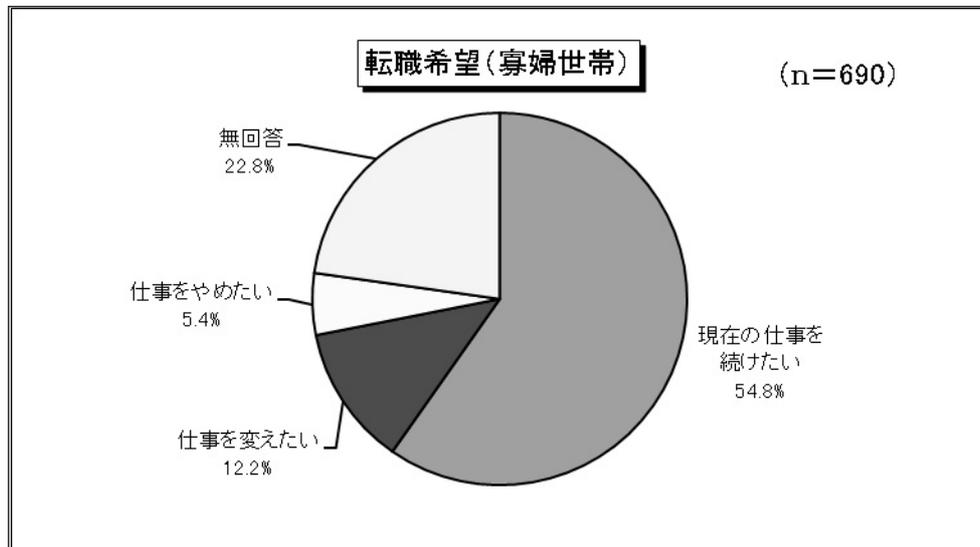
現在の仕事を始めた時期について尋ねたところ、「寡婦(かつて母子世帯であった方は母子世帯)になる前から」が29.7%、次いで「寡婦(かつて母子世帯であった者は母子世帯)になった後、転職」(28.4%)、「寡婦(かつて母子世帯であった者は母子世帯)になってから就職」(17.8%)の順となっている。



### (3) 転職希望・転職理由

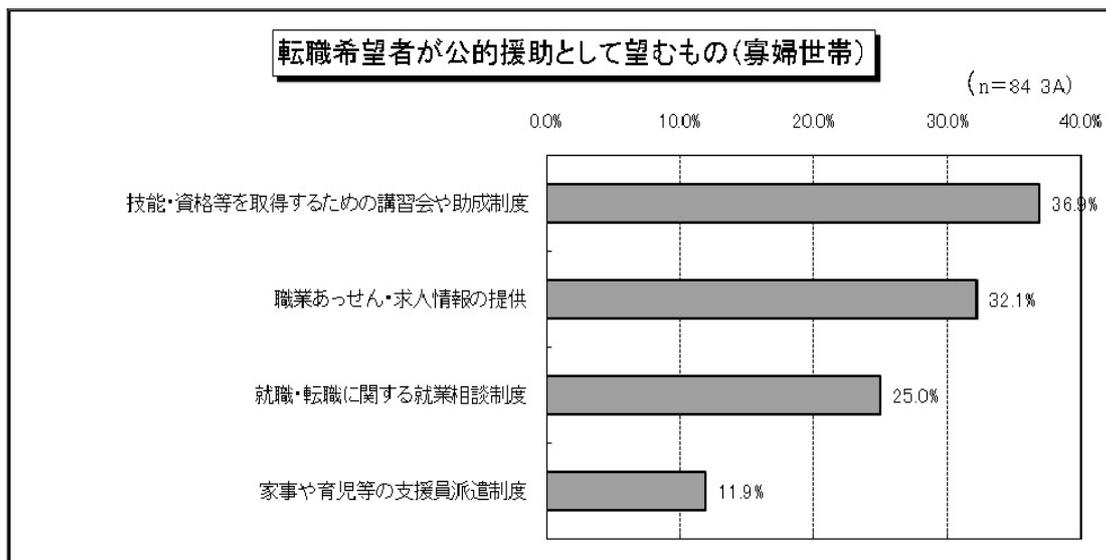
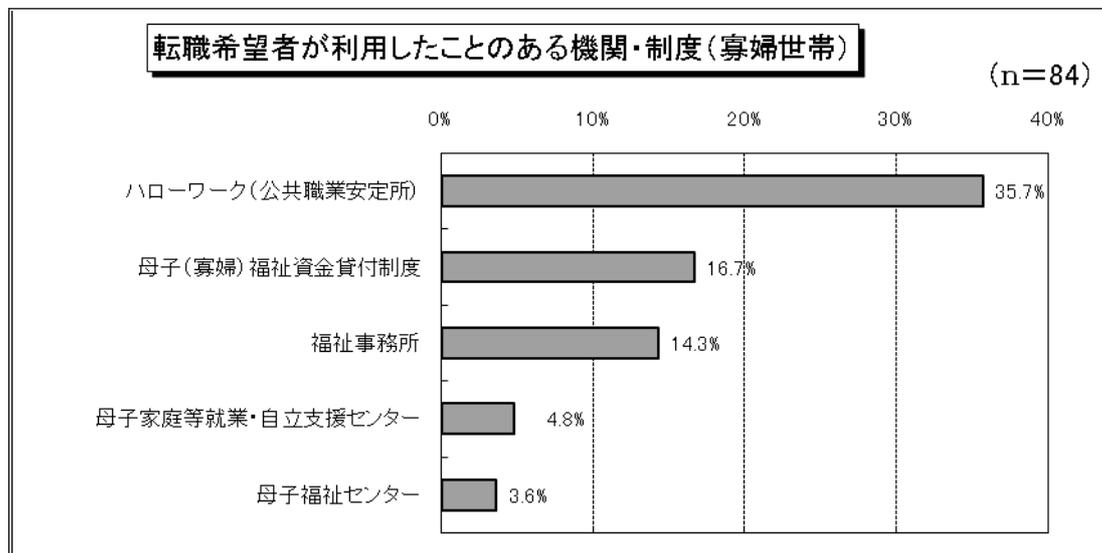
転職の希望を尋ねたところ、「現在の仕事を続けたい」と回答した者が54.8%、「仕事を変えたい」は12.2%であり、母子世帯と比べると「仕事を変えたい」の割合が低い。

これを就労形態別に見ると、「臨時雇用者等」は「常用雇用者」に比べ「仕事を変えたい」の割合が高いが、母子世帯における両者の差より小さくなっている。

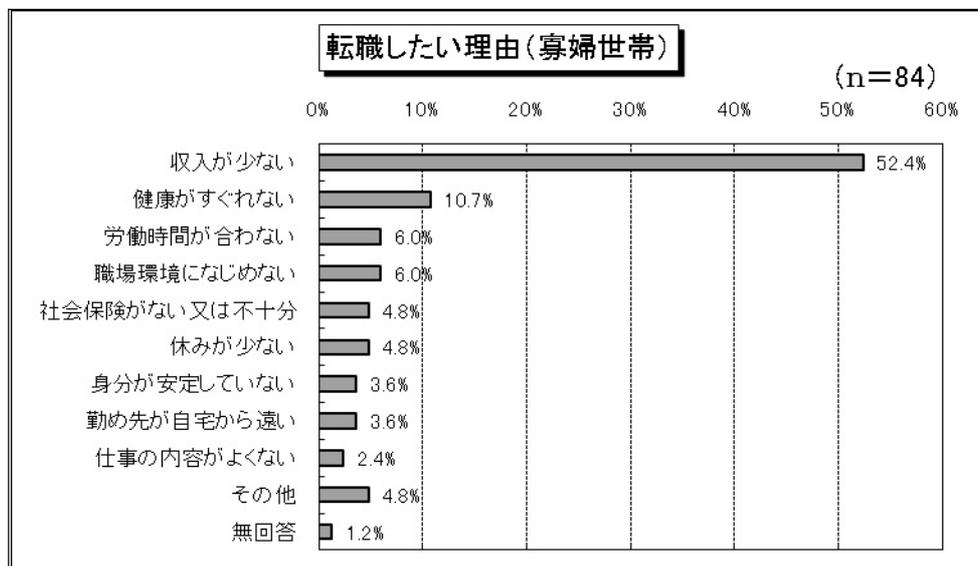


転職希望者が利用したことのある機関・制度として就業関連項目を見ると、「ハローワーク（公共職業安定所）」が 35.7%、次いで寡婦（母子）福祉資金貸付制度（16.7%）となっている。

また、転職希望者が望んでいる公的援助として就業関連の項目の割合を見ると、「技能・資格等を取得するための講習会や助成制度」が 36.9%、寡婦世帯全体より 14.9ポイント高くなっている。（5.(4)参照）



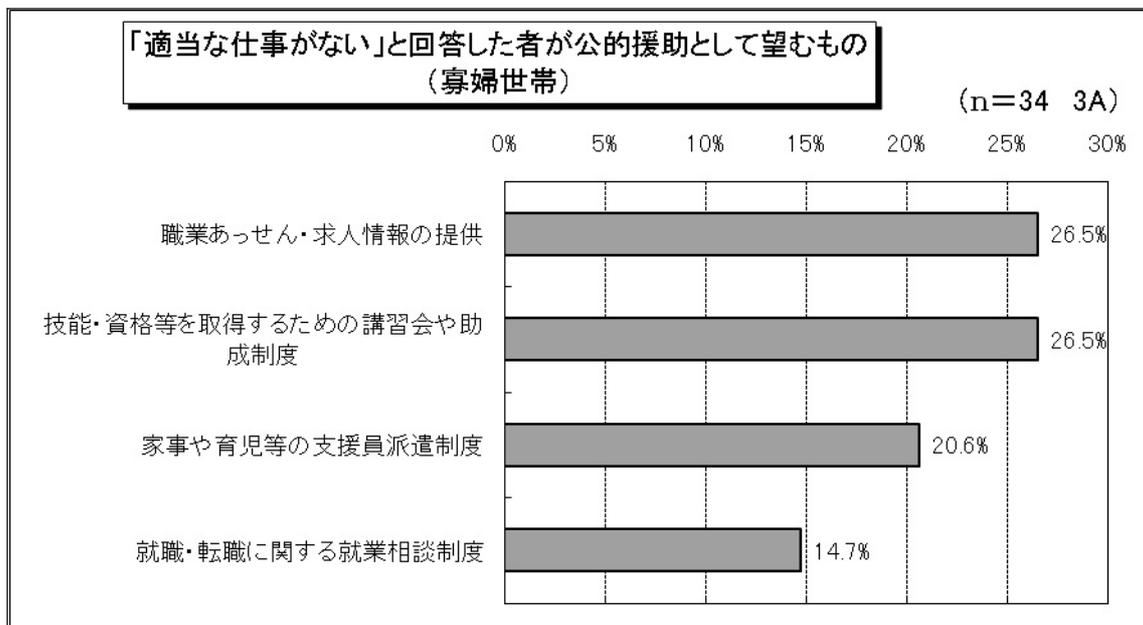
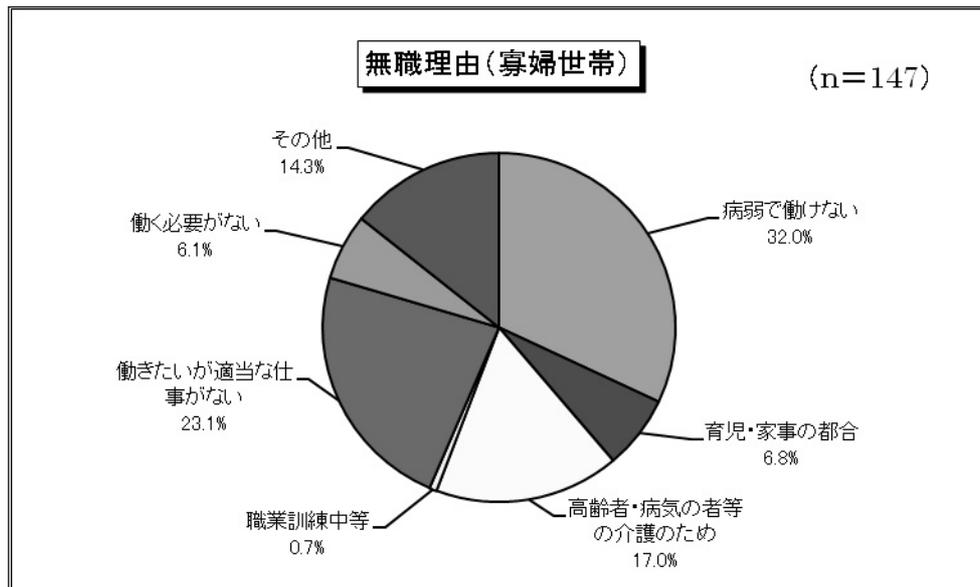
「仕事を变えたい」と回答した者にその理由を尋ねたところ、「収入が少ない」が52.4%で最も多く、母子世帯、父子世帯の状況と同様である。その他の理由として「健康がすぐれない」(10.7%)及び「労働時間が合わない」並びに「職場環境になじめない」(6.0%)などとなっている。



#### (4) 働いていない理由

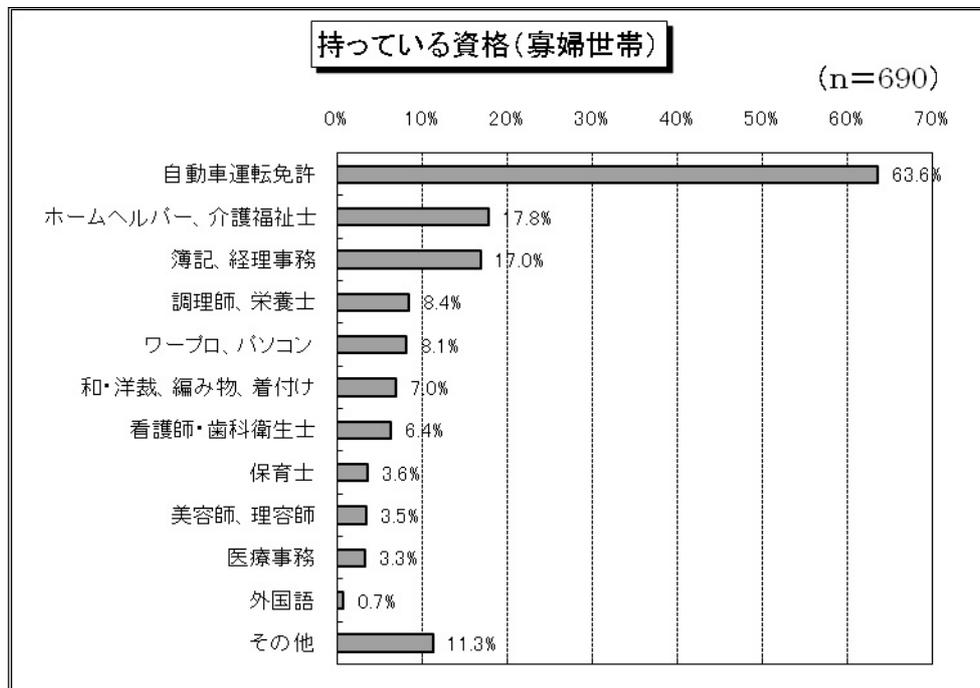
現在無職の者にその理由を尋ねたところ、その理由としては「病弱で働けない」(32.0%)、「働きたいが適当な仕事がない」(23.1%)で、母子世帯と同様、無職であることの主な理由となっている。また、寡婦世帯において特徴的なものとして、「高齢者・病気の者等の介護のため」(17.0%)が約2割程度いることが分かる。

また、無職者のうち、「働きたいが適当な仕事がない」と回答した者が望んでいる公的援助として就業関連の項目の割合を見ると、「職業あっせん・求人情報の提供」及び「技能・資格等を取得するための講習会や助成制度」が最も多く26.5%、次いで「家事等の支援員派遣制度(20.6%)」の順となっている。



### (5) 持っている資格

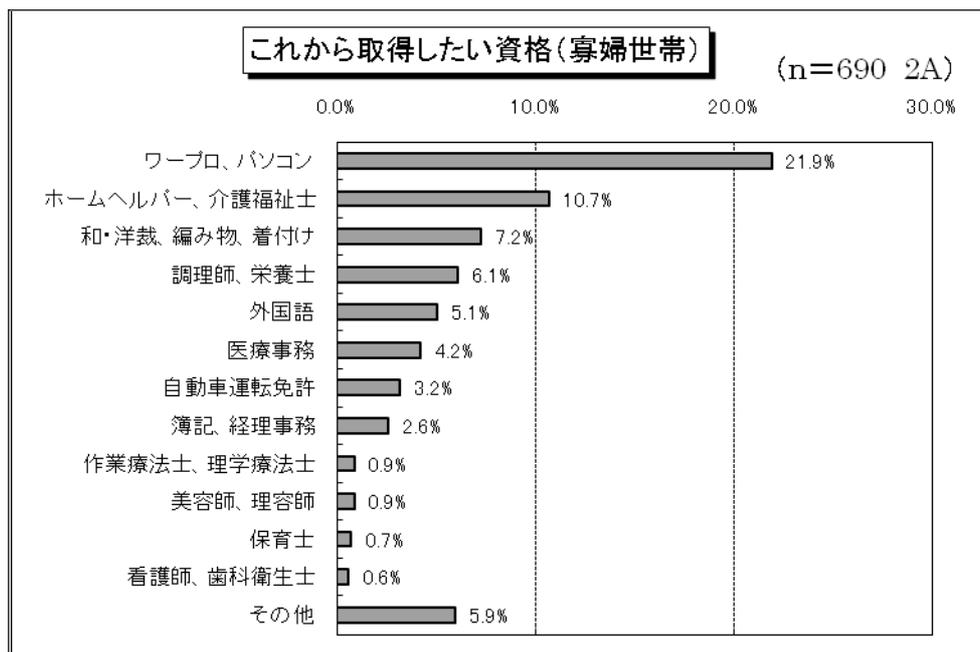
現在持っている資格は、「自動車運転免許」が63.6%と最も多く、次いで「ホームヘルパー、介護福祉士」(17.8%)「簿記、経理事務」(17.0%)、「調理師、栄養士」(8.4%)の順となっている。



### (6) これから取得したい資格

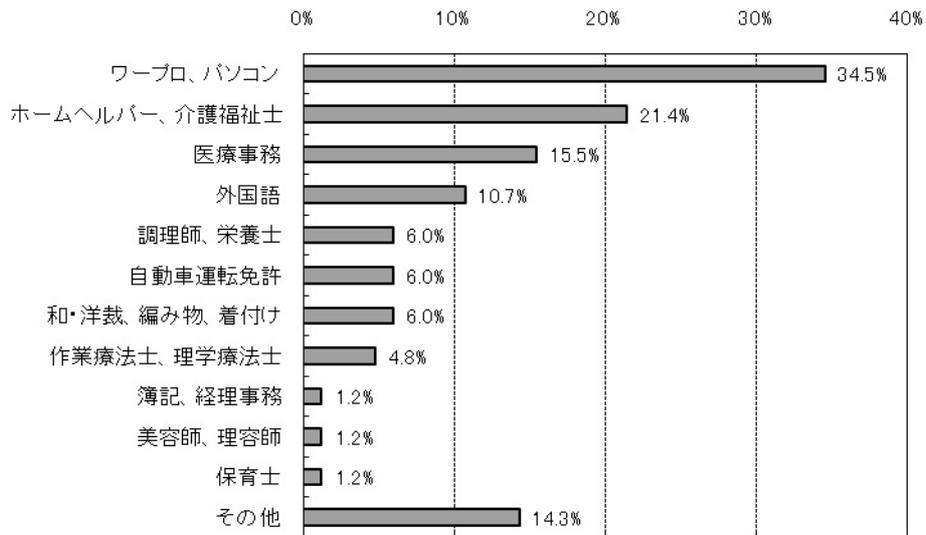
これから取得したい資格は、「ワープロ、パソコン」が21.9%と最も多く、次いで「ホームヘルパー、介護福祉士」(10.7%)、「和・洋裁、編み物、着付け」(7.2%)、「調理師、栄養士」(6.1%)の順となっている。

なお、「転職希望者」、「無職者」とともに「ワープロ、パソコン」が上位を占めている。



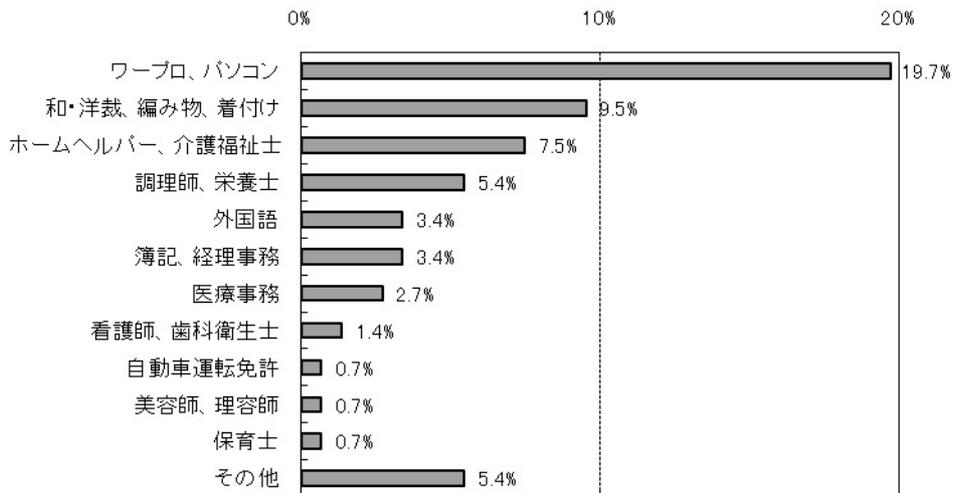
**転職希望者がこれから取得したい資格(寡婦世帯)**

(n=84 2A)



**無職者がこれから取得したい資格(寡婦世帯)**

(n=147 2A)

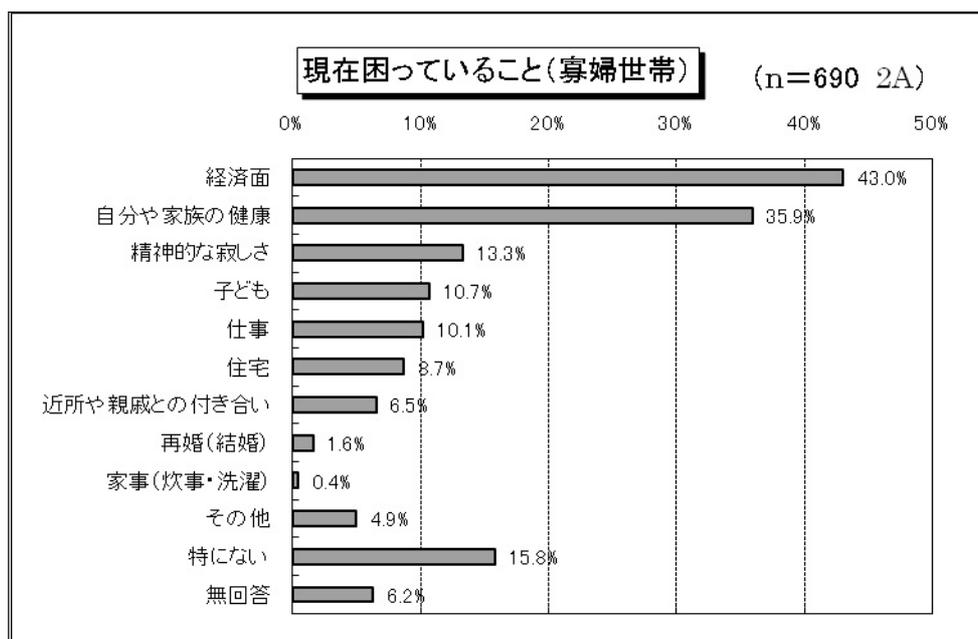


## 5. 相談相手や各種制度について

### (1) 現在困っていること

現在困っていることを尋ねたところ、「経済的側面」が43.0%と最も多く、「自分や家族の健康」(35.9%)、「特になし」(15.8%)、「精神的な寂しさ」(13.3%)、「子ども」(10.7%)、「仕事」(10.1%)の順となっている。母子世帯及び父子世帯に比べ、「特になし」の割合が比較的高い。

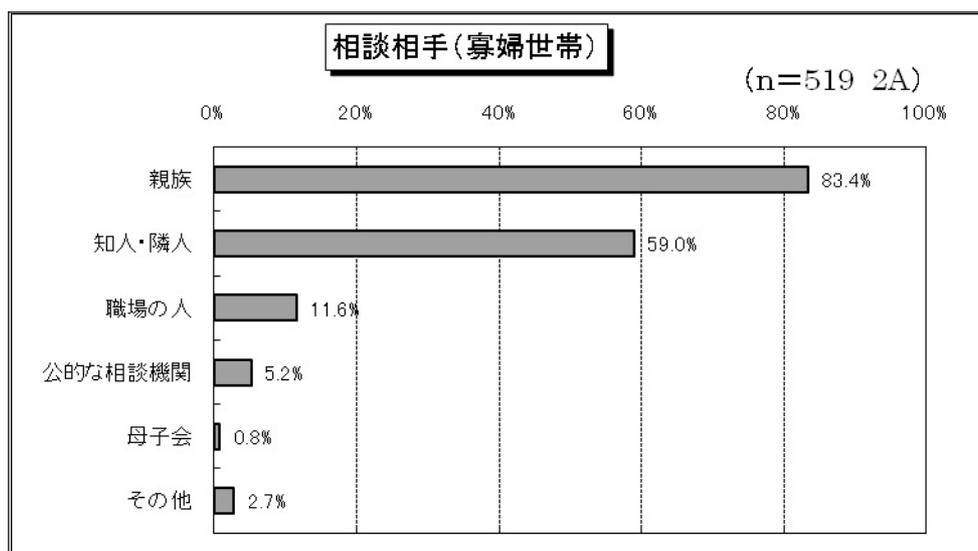
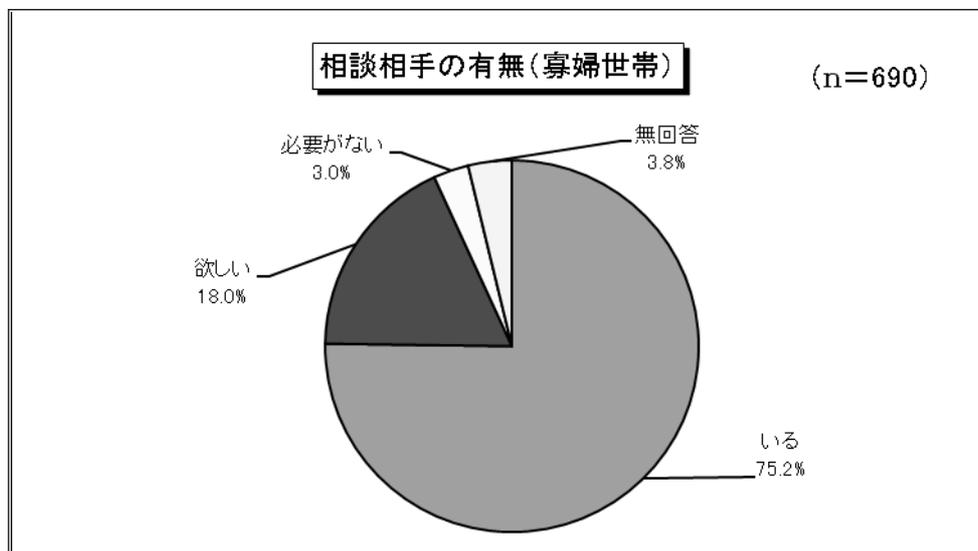
前回調査と比べると、1位だった「経済的側面」(37.3%)、2位だった「自分や家族の健康」(32.1%)が、さらに増加した。



## (2) 相談相手

相談相手の有無を尋ねたところ、相談相手が「いる」と回答のあった世帯の割合は75.2%、「欲しい」(18.0%)、「必要がない」(3.0%)となっている。

また、「いる」と答えた者にその相手を尋ねたところ、「親族」が最も多く83.4%で「知人・隣人」(59.0%)、「職場の人」(11.6%)などとなっている。



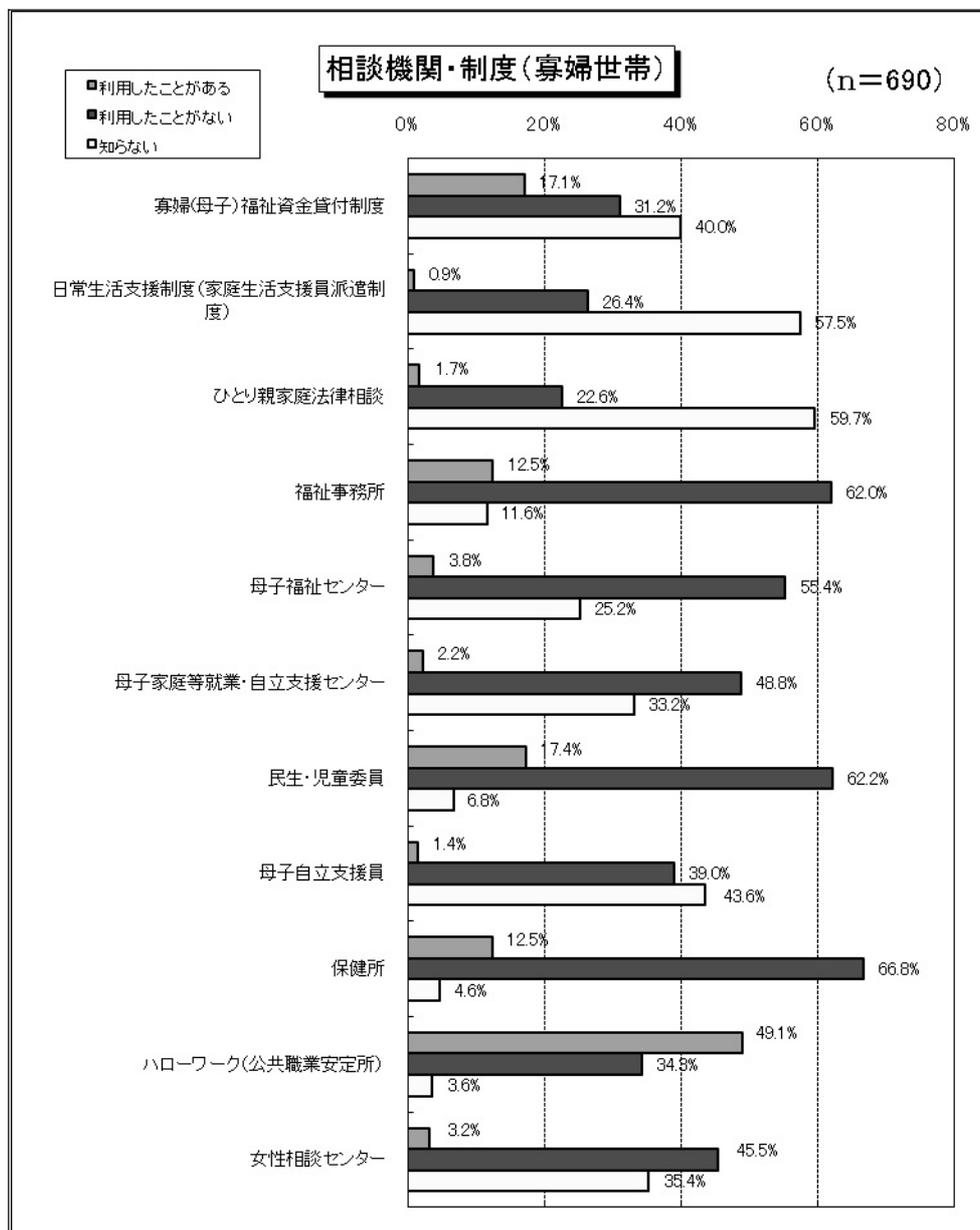
### (3) 利用したことがある機関・制度

公的相談機関や制度について、認知状況と利用の有無を尋ねたところ、「利用したことがある」ものとしては、「ハローワーク」が最も多く49.1%、次いで「民生・児童委員」(17.4%)、「寡婦(母子)福祉資金貸付制度」(17.1%)、「福祉事務所」並びに「保健所」(12.5%)の順となっている。

前回調査と比べると、「ハローワーク」の割合が増加し、「福祉事務所」の割合が減少している。

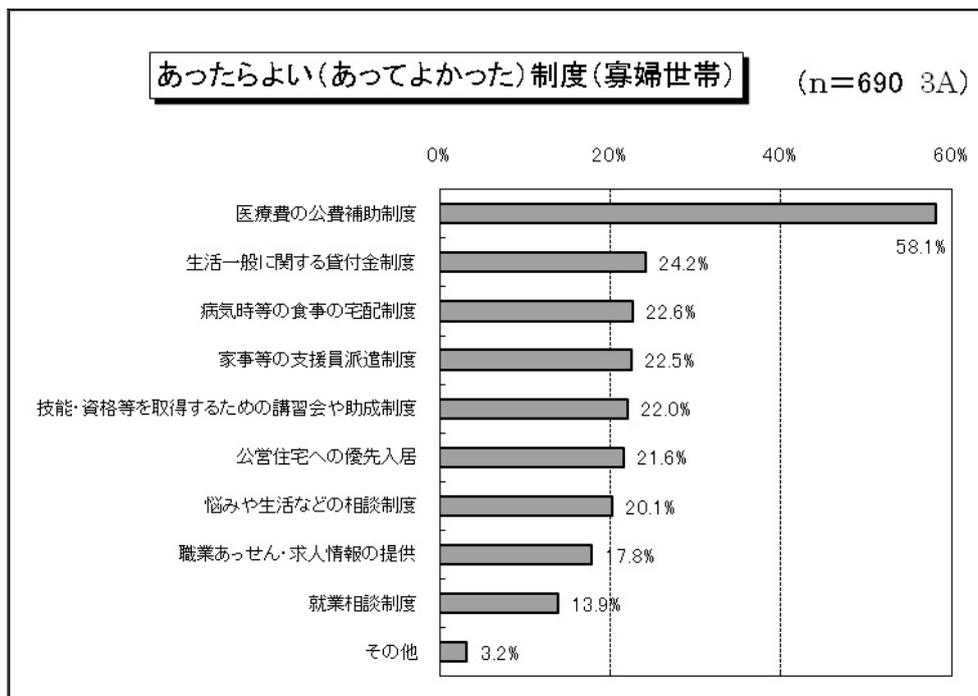
また、知っているが「利用したことがない」ものとしては、「保健所」が66.8%で最も高く、次いで「民生・児童委員」(62.2%)、「福祉事務所」(62.0%)、「母子福祉センター」(55.4%)の順となっている。

さらに、「知らない」ものとしては、「ひとり親家庭法律相談」(59.7%)、「日常生活支援制度(家庭生活支援員派遣制度)」(57.5%)、「母子自立支援員」(43.6%)「寡婦(母子)福祉資金貸付事業」(40.0%)等となっている。



#### (4) 公的援助として望むもの

公的援助としてどのようなものがあつたらよい(あつてよかった)と思うかを尋ねたところ、「医療費の公費補助制度」が58.1%と最も高く、次いで、「生活一般に関する貸付金制度」(24.2%)、「病気時等の食事の宅配制度」(22.6%)、「家事等の支援員派遣制度」(22.5%)、「技能・資格等を取得するための講習会や助成制度」(22.0%)となっている。「医療費の公費補助制度」が突出して高く、その他は10%～20%台の割合となっている。

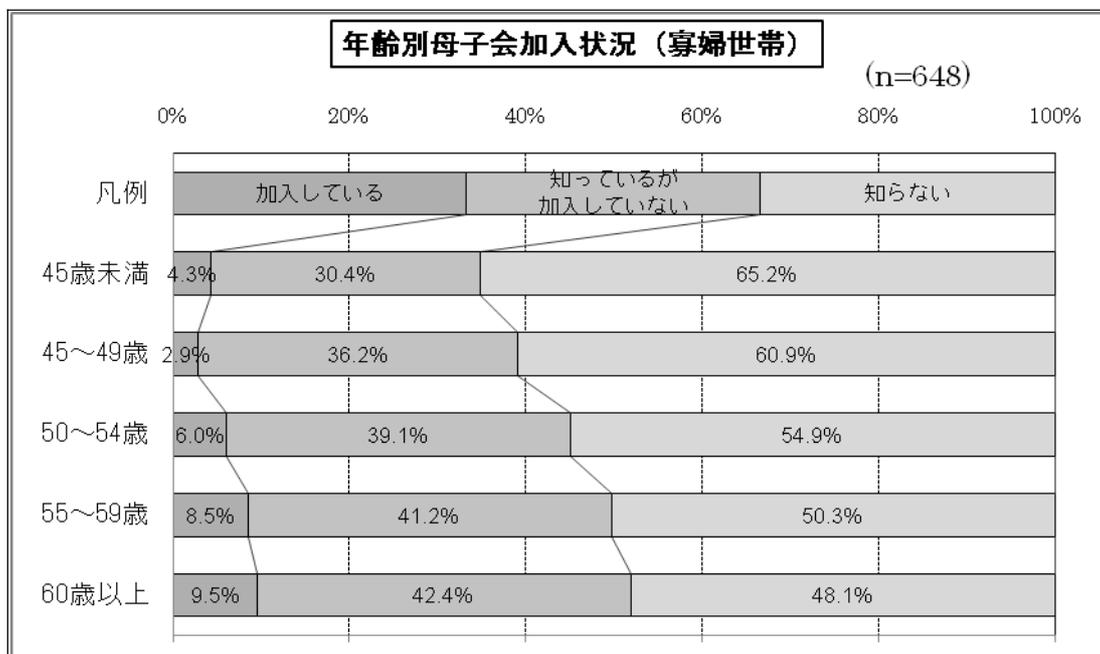
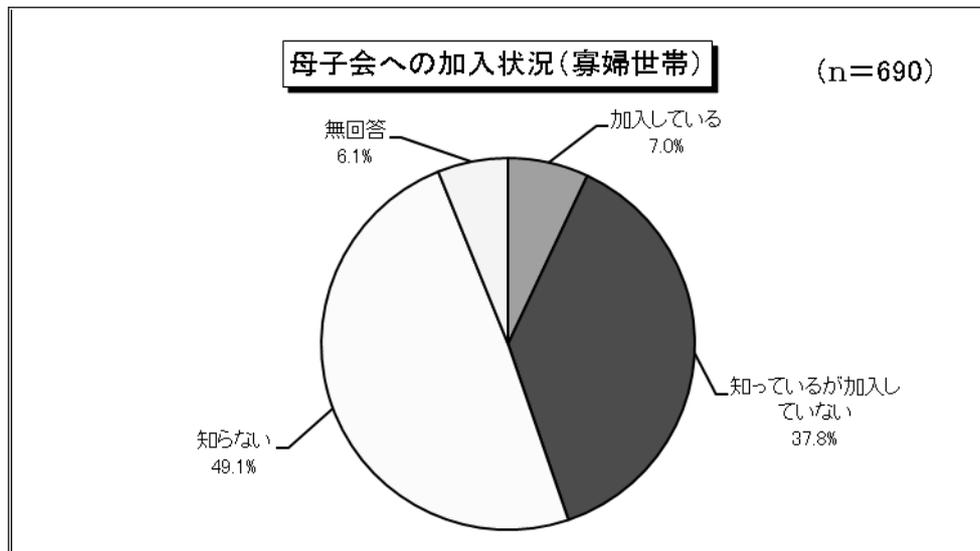


(5) 母子福祉団体（母子会）

母子福祉団体（母子会）については、「加入している」（7.0%）、「知っているが加入していない」（37.8%）、「知らない」（49.1%）となっている。

母子世帯に比べて「加入している」割合が高く、「知らない」が低くなっている。

これを年齢別に見ると、年齢が上がるにつれ「加入している」の割合も、高くなる傾向にある。また、「知らない」の割合は、母子世帯より低くなっている。

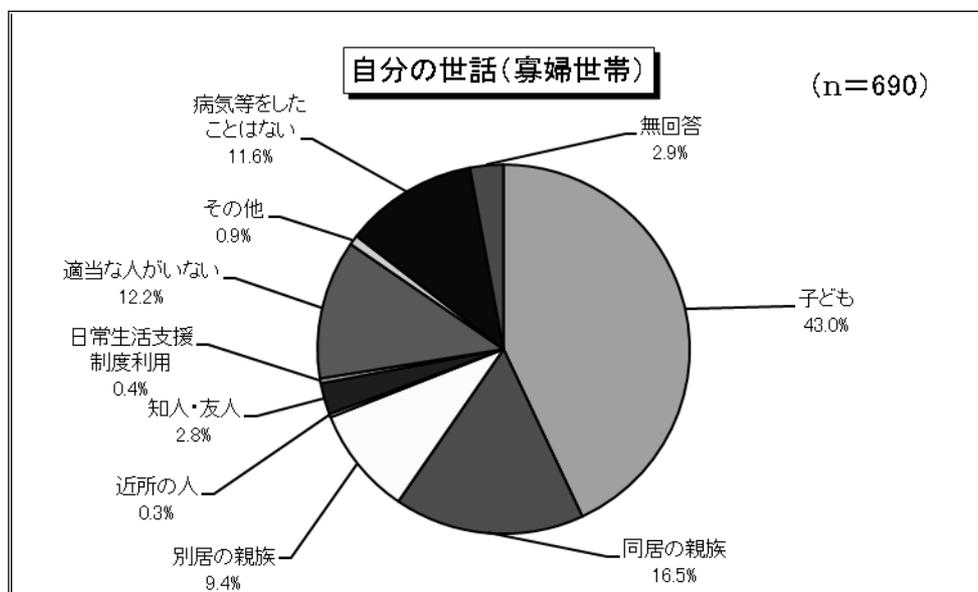


## 6. 健康について

### (1) 病気やけがの時の世話

寡婦が病気やけがの時、誰が世話をしてくれるかを尋ねたところ、「子ども」が43.0%と最も多く、次いで「同居の親族」(16.5%)、「病気等をしたことはない」(11.6%)の順となっている。

前回調査と比べると、「子ども」「同居の親族」の割合が増加している。



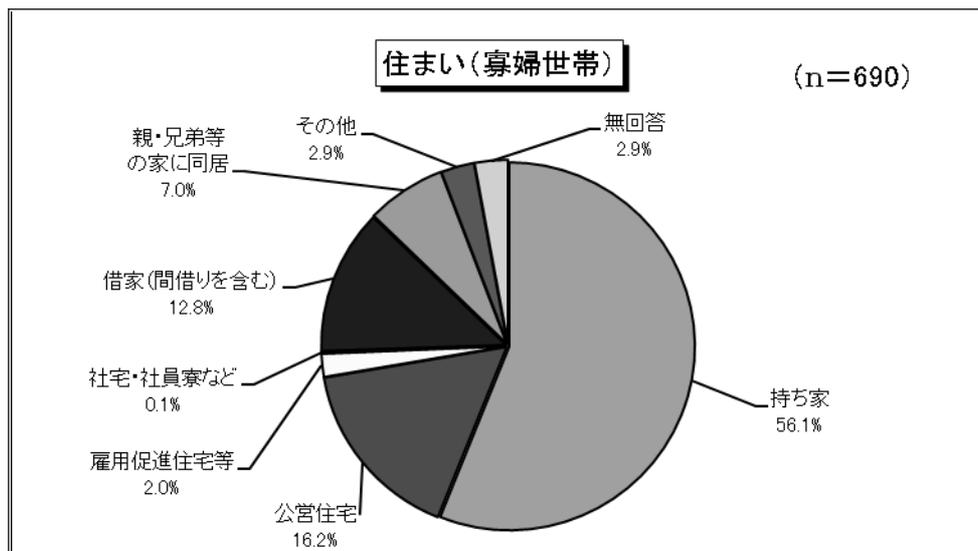
## 7. 住まいについて

### (1) 居住形態

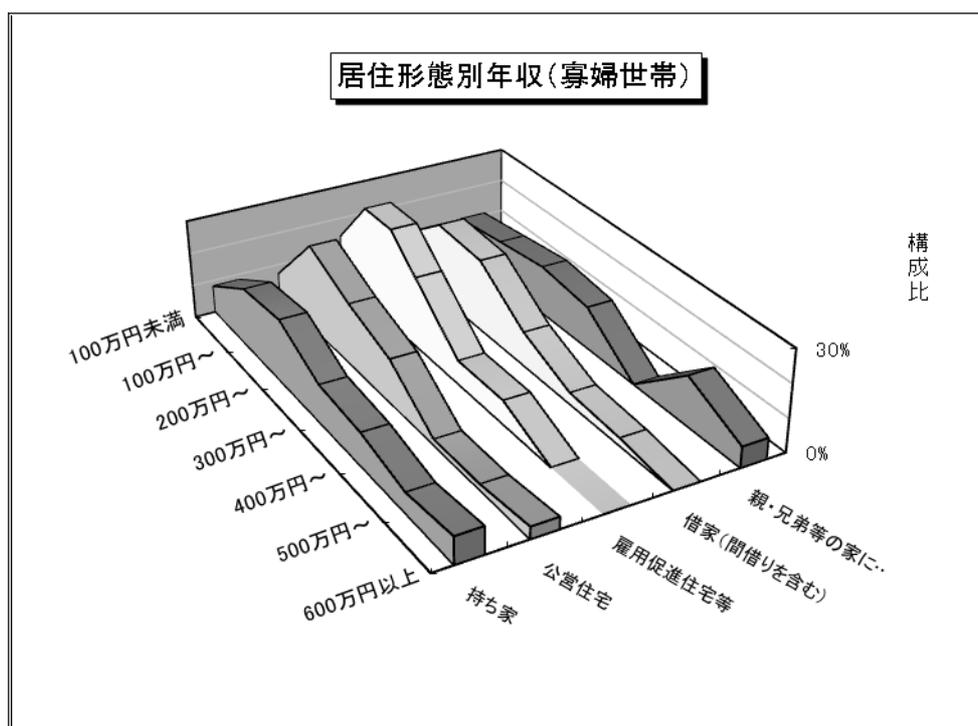
居住形態については、「持ち家」が56.1%、次いで「公営住宅」(16.2%)、「借家(間借りを含む)」(12.8%)、「親・兄弟等の家に同居」(7.0%)の順となっている。

前回調査と比べると、「持ち家」の割合がやや減少し、「公営住宅」の割合が増加している。

また、母子世帯と比べると、「持ち家」の割合が高く「公営住宅」「借家」「親・兄弟等の家に同居」が低い。



居住形態の区別に総収入を見ると、母子世帯ほど顕著でないが、「公営住宅」「雇用促進住宅」「借家」は「100万円以上200万円未満」を中心とした収入区分が多くなっている。



## 8. 自由意見

寡婦福祉について、県や市町村に対する自由意見を求めたところ、有効回答世帯690世帯中191世帯（27.7%）から回答があった。

一世帯一意見として集計した結果、「経済的援助・制度の充実」が27.2%と最も多く、次いで「情報提供してほしい」（13.6%）、「将来への不安」（9.9%）と前回のと同じ順となっている。

母子及び父子世帯と比べて、「情報提供してほしい」という意見が多い。

